

ご挨拶

---

近藤信司

( 国立教育政策研究所長 )

## ご挨拶

近藤 信司 (国立教育政策研究所長)

国立教育政策研究所長の近藤信司と申します。第26回教育研究公開シンポジウムの開会にあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

教育研究公開シンポジウムは、私ども国立教育政策研究所の研究成果を直接教育現場や一般市民に還元し、教育指導法の改善及び教員の資質向上に資する目的により、平成2年度から開催しているものです。このたびは第26回目のシンポジウムとなります。

本日のシンポジウムのテーマであるキャリア教育は、これからの教育改革における重要な施策の一つと考えています。

近年は経済構造の変化や雇用形態の多様化などが進んでおり、いわゆる非正規雇用の増大など、就職をめぐる環境が大きく変化してきています。また、いったん就職しても早期に離職したり、進学も就職も決まらないまま卒業する若者の存在が社会的に大きな問題になってきています。

こういった状況の中で、望ましい職業観、倫理観や職業に関する知識・技能を身に付けるとともに、自らの個性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てるキャリア教育が、ますます重要な時代になってきていると認識しています。

文部科学省においては、平成16年にキャリア教育の推進に関する研究協力者会議の報告書を公表し、様々な施策を講じてきました。現在は、中央教育審議会生涯学習分科会においても、このキャリア教育を視野に入れた議論が進められていると承知しています。また、政府においてもキャリア教育等推進会議を開催し、今年の5月には「キャリア教育等推進プラン」を公表しており、国を挙げて、キャリア教育について、あるいは若者たちの様々な問題についての施策を講じてきているところです。

このような国の動向を受け、国立教育政策研究所におきましては、平成15年度から17年度にかけて、子どもから成人までを研究対象としたキャリア概念の発達過程を追いながら、その発達を個人と社会の相互作用の視点でとらえ、社会から個人への支援として何が求められているのかを明らかにしようとする政策課題リ

サーチ研究「生涯にわたるキャリア発達の形成過程に関する総合的研究」を行ってきたところです。

本日はこの研究の一環として、調査研究の成果の報告を行いますとともに、キャリア教育の実践事例を紹介し、またパネルディスカッションを通じて、キャリア教育に関する議論を一層深めていただけたらと念じております。

調査研究に当たりましては、私ども研究所のメンバーに加えまして、外部の研究者として、法政大学キャリアデザイン学部の桐村晋次先生にご参加いただきましたが、本日のシンポジウムではさらに大阪教育大学の関隆晴先生、千葉大学の上杉賢士先生、そして独立行政法人労働政策研究・研修機構の小杉礼子先生にもご参加いただくことができました。各先生方にはご多忙の中をご協力いただき、御礼を申し上げます。

それぞれの先生方から忌憚のないご意見をいただき、本日のシンポジウムが、お集まりの皆様にとって実りの多い内容になることを祈りますとともに、キャリア教育の理論や実践、研究と施策をより充実・発展させることにつなげ、子どもたちをはじめ、青年、成人、職業人の生涯学習活動の活性化への寄与を願って、ご挨拶とさせていただきます。

